

魚住誠一 ① EIZO ColorEdge CG241W 信頼できるモニターが存在が、 独特のウオズミ・カラーを支える

ファッション分野の撮影で鍛えられた独特の色表現とストロボワークで注目を集める写真家・魚住誠一。そ

の「絵づくり」を支えているのは、Adobe RGBカバー率96%を誇るEIZO ColorEdge CG241Wです。

【プロフィール】
魚住 誠一
UOZUMI Seichi

愛知県生まれ。名古屋学院大学卒業。高校在学中よりロックバンドで活動。CDをリリースし、ツアーをするがバンドは崩壊。途方に暮れ、渡米。ロスでアンセル・アダムスに憧れ写真を撮り始める。94年よりフリー。ファッション誌、音楽誌などで活躍中。近著「スタイリッシュ・ポートレート」の撮り方(弊社刊)が好評。



代表的なウオズミ・カラーといえる日中シンクロのショットです。アンダー気味にした背景でボディの存在感を強調しています。CG241Wは、肌のシャドー部をどこまで見せるか潰すかの微妙な作業を間違いないものにしてくれます。

キヤノンEOS 5D PCニッコール35mmF2.8(マウントアダプター使用) 絞りF14 1/200秒 ISO100 WBオート RAW TEEDA CD-600ストロボ使用

日陰で撮影したカットは、強いハイライトがないぶん、肌の階調が滑らかで微妙です。その微妙な階調をきちんと再現できるモニターとの出会いがRAW現像やレタッチ作業を支えてくれるのです。キヤノンEOS 5D タムロンSP AF28-75mmF2.8 絞りF4.5 1/250秒 ISO100 WBオート RAW

Adobe RGBカバー率
96%に感激!

EIZO ColorEdge CG241Wをお使いたそうですが、どこが気に入っていますか。魚住誠一「いろいろあります。性能が一番ですが、外観も気に入っているんです。つや消しのブラック、液晶パネルの周囲が狭いのも、スッキリしたデザイン上の良さだけでなく、24.1インチのモニター外寸をミニマムにしてくれています。液晶パネル下部の操作ボタンが目立たず、それでいて操作しやすいのもプロの道具らしくていい

んです」

魚住さんの事務所、たしかに機材が詰まっていますね。

「詰まっているなんて、気を遣って言ってもらっていますが、一言でいうとグチャグチャ。パソコンの他にA3ノビのプリンタが2台あるしA4のプリンタも。画像バックアップ用のハードディスクも数え直さないと台数が分からないくらいだし、そこへ24.1インチのモニターなので、環境光を考えると理想的な場所に設置するというようなことが難しく、……でも、CG241Wは専用の遮光フードが標準で付いているし、パネル位

置を高く設定できたり、ケーブルがホルダに収納できたりと、設置のときは助かりました。モニターは液晶の表示性能ばかりが話題にされますが、それを生かせる設置ができるかどうかも重要だと思います」

性能面で惚れているのはどんな点ですか。「それはなんと言ってもAdobe RGBの約96%をカバーしているという点です。以前からEIZOの液晶モニターを愛用していますが、sRGB表示なので、Adobe RGBで撮った画像を表示させると見えていない色があるわけです。それでも、自分のモニターでこう見えているときプリントではこう



RAW現像での調整、レタッチ済みの画像。肌の階調を損なうことなく、肌色を整えるレタッチ作業には、階調を正確に再現してくれるColorEdge CG241Wが欠かせません。sRGBが苦手とするグリーン域もAdobe RGBカバー率96%ならではの再現力で大安心です。

キャノン EOS 5D EF50mm F1.8 絞りF3.2
1/125秒 ISO100 WBオート RAW
Adobe Photoshop CS3にて現像&レタッチ



ストレート現像、レタッチ前の画像。この元画像と左の調整済み画像の差は、正確なモニター上でこそ実現します。



ColorEdge CG241Wで二宮歩美さんの画像をレタッチ中の魚住誠一氏。「これ実物大の二ノちゃんです」と笑顔。

[モデル]
二宮 歩美
NINOMIYA Ayumi

生年月日:1984年9月24日
サイズ:T155 B86 W57 H85cm
出身地:千葉県
血液型:AB型
趣味:ボーリング
特技:料理・お菓子作り
http://www.myany.jp/nino/

EIZO ColorEdge CG241W

ナナオ <http://www.e-coloredge.com/> TEL.0120-956-812



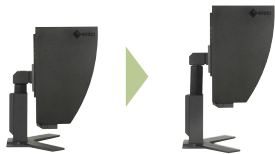
ColorEdge CG241W本体、外形の左右幅は69cm、Y字型の脚部は安定感があります。



本体パネルは、左へ35度、右へ35度の角度調整が可能です。上方へ40度のパネルをチルトすることができ、



パネルの下部に並んだ操作ボタン。左から3番目のMモードボタンを押すと、sRGBモード、Customモード、CAL(キャリブレーション)モード、EMUモードの4種類に切り替えることができます。



本体パネル位置は上方へ82mmスライドすることができます。写真は遮光フードを装着。実用的なフードの深さがよく分かります。



右回りで90度パネルが回転します。用途によっては、垂直な構造です。



ケーブル類をまとめられるホルダーが本体脚部の背面にあります。細かい配慮を感じさせる部分です。

主要諸元

映像部: パネル種別:カラーTFT液晶パネル(VA方式) サイズ:24.1型ワイド 最大表示解像度:1920×1200ドット 画素ピッチ:0.270×0.270mm 最大表示色/階調表示:1677万色(約680億色中)Y256階調(4081階調中) 最大輝度:300cd/m² コントラスト比:850:1 視野角:水平178度、垂直178度 応答速度:11ms/5ms(黒白黒、立ち上がり/立ち下がり) 6ms(中間階調) 表示モード:sRGB、Custom、Calibration、Emulation

入力信号: 入力信号:DVI Rev.1.0準拠 入力端子:DVI-H 29ピン(HDCP対応) 入力系統:2系統

搭載ASIC: 内部LUT:12ビット 内部演算処理精度:16ビット

角度調整: 上下(チルト):上40度、下0度 左右(スイベル):左35度、右35度 昇降範囲:82mm ローテーション:右回り90度

本体仕様: USBポート:USB 2.0×3(アップ×1、ダウン×2) 電源:内蔵(AC100-120V/AC200-240V 50/60Hz) 消費電力(節電時):110W(2W以下、1系統信号入力時、USB非接続時) 外形寸法(W×D×H):566×230×456~538mm(スタンド部含む) 重量:約11kg(スタンド含む)

付属品:遮光フード、電源ケーブル、信号ケーブル、USBケーブル、アプリケーションCD-ROM ColorNavigator、UniColor Pro、ICCプロファイル、マニュアル) VESAマウント取り付け用ネジ6本、セットアップガイドなど

価格:オープン(EIZO Direct価格=モニター単体18万8790円、センサーセットモデル20万9790円)

なる、印刷ではこうなるといいう経験値で、仕事をこなしてきました。その経験値による精度には自信を持っていましたが、実際に見ているとおりでいいというのを経験してしまうと、やはりこれに勝るものはありませんね。RAW現像もレタッチも、目で見たままを頼りにできるのは安心感が違います。経験値でやっているときには、経験したことのない色調や条件では、どうしても推測に頼るしかありませんでしたから」

CG241Wはハードウェアキャリブレーションですが、

「従来のソフトウェアキャリブレーションは、

ビデオカードの出力信号を調整することで補正をしていたわけですが、ハードウェアキャリブレーションはビデオカードの信号は変化させずに、モニター内部のパラメーターを直接調整して理想的な白色、ガンマカーブ、輝度をコントロールしてくれるということで、信頼性は抜群ですね。しかも、12ビットのルックアップテーブル、16ビットの内部演算処理精度によって滑らかな階調表現を実現。肌の色の微妙な階調表現にも余裕があります」

キャリブレーションは定期的に行いますか、

「プロにとって、もはやセンサー(測色器)を

使ってキャリブレーションすることは常識になってはいますが、定期的に行う必要があった、正直なところ面倒な作業でもありました。ところが、ハードウェアキャリブレーションは測定の時間が短く、しかもソフトも専用のものが添付されていて、ボタンを数回押すだけで作業が終わります。自分でモニターの輝度やコントラストを調整しないでいい手軽さが、結果的にモニターの精度を常時キープすることにつながっています。表示能力といい、信頼性といい、扱いやすさといい、もう従来のモニターには戻れない気がしています」